

ベッド→車イスの移乗（全介助編／一部介助編）

（ノックを三回）

介護士：「太田さん、こんにちは。本日担当の〇〇です。今日は娘さんがお見えになる日ですね。もしご体調よろしければ、早めにフロアまで移動して、お待ちになってはいかがでしょうか？」
→YES（テストなので、ひとまず流れで）→介護士：「承知いたしました。それでは、車イスの準備をいたしますので、しばらくそのままお待ちください。」

↓

【車イスの準備】

1. まず、ストッパーがかかっているか確認。
2. 後方から広げる。
3. 前方に回って、座席部分を押さえ、広げる。
4. 足置きを外して、ベッドの足元下に置いておく。
5. ストッパーを外す。
6. 車イスを押して、ベッド中央 45° の移乗しやすい場所に配置する。
7. スペースをつくるため、右側車輪のストッパーのみ外して、移動させる。
8. 左の腕置きを外しておく。

↓

介護士：「お待たせいたしました。それでは準備ができましたので、車イスに移っていきましょう。申し訳ありませんが、まず、お手伝いするためにベッドの高さを上げてもよろしいでしょうか？」→YES→介護士：「ありがとうございます。それでは、上げさせていただきますね。」

↓

（リモコン操作のあいだ、肩等に手を当てる、会話をする、等の対応をする。） ※高さは介護士の指がつくぐらいに。

↓

介護士：「それでは、車イスに移りましょう。まずは、腕を胸の前で組みましょう。」

↓

利用者の両腕を胸の前で組む。 ※一部介助の場合は残存能力を活用。

↓

介護士：「それでは太田さん、これから体勢を変える際に（適宜ジェスチャーを加えながら）ベッドの右側にスペースが必要になりますので、いまから一旦、ベッドの左側に移っていただきます。ですので、ベッドの左側からお手伝いさせていただきますね。」

↓

ベッドの左側へ移る。

↓

介護士：「それでは、手すりを外しますね。」

↓

手すり（サイドレール）を外し、適切な場所に置く。

↓

介護士：「それでは、一旦、ベッドの左側に水平に移動していただきます。お手伝いいたしますね。頭、失礼いたします。」

↓

側頭部を撫でるように。すこし持ち上げ、右腕を後頭部に差し込み、そのまま右側肩甲骨を支える位置へ。てのひらで右側肩甲骨を支え、二の腕で後頭部を支える。左手は左側肩甲骨の下へ差し込む。

↓

介護士：「それでは移動します。」

↓

水平移動。※介護士の手を引くように（重心移動）。枕も移動する。

↓

下半身の移動。まずは姿勢を真っ直ぐに整える。

↓

介護士：「足も移動しますね。まず、膝を立てます。」 ※一部介助の場合は残存能力を活用。

↓

介護士：「すこし腰を浮かせますね」 →（介護士の右手を仙骨の下へ。） → 「身体を丸めるように。膝を胸のところまで持っていきます。」 ※一部介助の場合は残存能力を活用。

↓

左手で両膝を支え、右手は利用者の仙骨の下へ。

↓

介護士：「それでは、移動します。」

↓

水平移動。※介護士の手を引くように（重心移動）。

↓

身体の向きを整える。

↓

介護士：「痛いところはありませんか？」

↓

(ないです)

↓

介護士：「それでは、つづけていきましょう。では、左側の手すりを戻して、今度は右側からお手伝いしますね。」

↓

左側の手すり（サイドレール）を戻し、ベッド右側へ移動する。

↓

介護士：「それでは、今度は右側の手すりを外します」

↓

右側の手すり（サイドレール）を外す。

↓

介護士：「では、次は右側に 90°、横向きに寝返りを打っていただきます。」

↓

(ここで、腕を組んでいるはずだが、もしも崩れていたら、もういちど組み直す。)

↓

介護士：「まず、枕の位置を整えます。頭、失礼します。」

↓

枕を引く。

↓

介護士：「では、もういちど、膝を立てますね。」

↓

膝を立てる。 ※一部介助の場合は残存能力を活用。

↓

介護士：「背中に手を失礼いたします。」

↓

左手を利用者の左側肩甲骨の下へ。

↓

介護士：「それでは、寝返りを打ちます。」

↓

寝返りを打つ。体勢、角度に無理がないかどうかを確認する。

↓

介護士：「では、起き上がっていただくために、足の位置を調整しますね。」

↓

膝の位置はベッドの端。

↓

介護士：「では、かかとをベッドから落とします。」

↓

(これで起き上がりやすい体勢になっているはず。)

↓

介護士：「もういちど、頭の下に腕を通します。」

↓

頭の下から腕を通して、利用者の右側肩甲骨を支える。介護士の右側二の腕で利用者の側頭部を支える（首吊りにならないように注意！）。右手は利用者のふとももに添える。

↓

介護士：「それでは、起き上がりますよ？ よろしいですか？」

↓

利用者のタイミングに合わせて、起き上がる（重心移動）。

↓

介護士：「はい、おつかれさまです。めまいはありませんか？」 → (ないです) → 「ありませんか。それでは、車イスに移って行きましょう。それでは、浅く腰かけていただきます。左から動かします。」 ※一部介助の場合は残存能力を活用（左方まひの場合は右から）。

↓

右手は、利用者のわきから右側肩甲骨を支える。左手は、骨盤を支える。

↓

介護士：「それでは、前に動きます。」（右腕を軽く外側へ。左半身が浮くので、右手で前へ。視線は利用者の太もも。）

↓

介護士：「はい。次は反対です。」

↓

左手は、利用者のわきから左側肩甲骨を支える。右手は骨盤を支える。

↓

介護士：「それでは行きます。」（左手を軽く外側へ。右半身が浮くので、左手で前へ。視線は利用者の太もも。）

↓

介護士：「はい。ありがとうございます。それでは、車イスへ移りやすいようにもういちどベッドの高さを調節しますね。」

↓

利用者を右手で軽く支えながら、リモコン操作。つま先が床に着くまで。

↓

介護士：「それでは、靴を履いていただきます。」

↓

※確認テストでは、自力で履いてもらう。

↓

介護士：「それでは、足の位置を整えますね。」(膝の下に土踏まず。両足が揃っているかどうか。)

↓

介護士：「では、車イスに移りましょう。」(利用者の肩を軽く支えながら、車イスを引きよせる。利用者の膝からこぶし一つ分。ストッパーを止める。)

↓

介護士：「それでは、車イスに移りましょう。右手を私の肩にのせてくださいね。」(全介助なので、のせてあげる。介護士の顔は車イスと利用者のあいだ。移乗する車イスを目視確認できるように。左手は利用者の右側肩甲骨を支え、右手は骨盤を支える。) ※一部介助の場合は残存能力を活用。なお、介助者の頭の位置が異なる。

↓

介護士：「それでは、車イスに移ります。」(利用者のタイミングをみながら、移乗する。)

↓

【車イス移乗後】

1. 左の腕置きを戻す。
2. 浅座りになっている場合があるので、確認する。
3. 足置きを取り付け、足を載せる。 ※一部介助の場合は残存能力を活用。
4. 後方に回り、ストッパーを外す。

↓

介護士：「ご協力ありがとうございました。それではフロアへ向かいましょう！」